栃木県結核・感染症発生動向調査情報（サーベイランス）

令和5(2023)年8月（週報第 31 週～第 35 週（7/31～9/3））集計の感染症発生動向調査情報に関する解析結果は次のとおりです。

1　感染症解析情報　｛8月は5週間、7月は4週間、前年同期は5週間での比較となります。｝

（1）定点把握疾病情報

ア. 定点把握疾病のうち、週報疾病（インフルエンザ/COVID-19、小児科、眼科、基幹定点における対象疾病）は **8,793 件**（定点あたり 26.55 **件／週**）であり、7月の **5,708 件**（定点あたり 25.09 **件／週**）と比較し、1.06 **倍**とほぼ同様の水準で推移しています。

イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。

疾病名	報告数	前月との比較（週あたり比）	前年同期との比較（週あたり比）
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	**6,791 件**（週あたり平均 1,358.20 件）	↑ **（2.05 倍）** 前月は 2,647 件（週あたり平均 661.75 件）	↓ 参考値 **（0.63 倍）** 前年同月は 10,812 件（週あたり平均 2,162.40 件）
手足口病	**419 件**（週あたり平均 83.80 件）	⇨ **（0.95 倍）** 前月は 353 件（週あたり平均 88.25 件）	↓ **（0.50 倍）** 前年同月は 833 件（週あたり平均 166.60 件）
ヘルパンギーナ	**362 件**（週あたり平均 72.40 件）	↓ **（0.22 倍）** 前月は 1,290 件（週あたり平均 322.50 件）	↑ **（7.70 倍）** 前年同月は 47 件（週あたり平均 9.40 件）

① **新型コロナウイルス感染症**は、前月に比べ報告数が 2.05 倍と大幅に高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 0.63 倍とかなり低い水準で推移しています。なお、令和5年第 18 週以前のデータは、感染者数のデータを基に、定点当たりの報告数を集計したものであり、参考値となっています。

② **手足口病**は、前月に比べ報告数が 0.95 倍とほぼ同様の水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 0.50 倍とかなり低い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。

③ **ヘルパンギーナ**は、前月に比べ報告数が 0.22 倍と大幅に低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 7.70 倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。

（2）全数（1～5 類）把握疾病情報

ア. 1 類、2 類、3 類疾病及び新型インフルエンザ等感染症（全国）
結核 1,348 件(7月 1,122 件)、細菌性赤痢3件（7月7件)、腸管出血性大腸菌感染症 706 件（7月 521 件)、腸チフス3件（7月3件)の報告がありました。

イ. 4 類・5 類（上位 6 疾病）（全国）

順位	疾患名	件数	前月件数
1	梅毒	1,322	1,158
2	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	227	138
3	レジオネラ症	198	237
4	侵襲性肺炎球菌感染症	140	115
5	百日咳	92	113
6	日本紅斑熱	81	51

ウ. 栃木県では次の報告がありました。（計 61 件）（7月 54 件）
結核 24 件、腸管出血性大腸菌感染症5件、レジオネラ症4件、アメーバ赤痢1件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症6件、急性脳炎2件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2件、後天性免疫不全症候群2件、侵襲性肺炎球菌感染症1件、梅毒 13 件、播種性クリプトコックス症1件

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります。

2　疾病の予防解説（結核）

毎年 9 月 24 日～30 日は結核予防週間です。

現在日本では年間1万人以上の人が新たに結核と診断され、1,600 人以上の方が亡くなっています。

結核は早期に適切な治療をすれば治すことのできる病気です。重症化を防ぐとともに、家族や友人等に感染を拡大させないために、早期発見・早期治療が大切です。

咳や痰が2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

疾病名	結核
原因 感染経路	病原体は結核菌（Mycobacterium tuberculosis）です。 結核を発病※して排菌している患者が咳やくしゃみをすると、飛沫に含まれる結核菌が空気中に飛び散り、それを周りの人が直接吸い込むことによって感染します（空気感染）。 ただし、感染してもすべての人が発病するわけではありません（発病するのは感染者の 1 割～2 割程度）。健康であれば免疫の働きによって結核菌を抑え込みますが、免疫力が落ちると抑え込まれていた結核菌が再び活動をはじめ、発病することがあります。抵抗力のない人（高齢者、過労、栄養不良、他の病気による体力低下等）は注意が必要です。 ※発病：感染した後、結核菌が活動を始め、菌が増殖して体の組織を冒していくこと。 症状が進むと、咳や痰と共に菌が空気中に吐き出されるようになります（排菌）。
症状	初期症状はカゼと似ていますが、咳、痰、発熱（微熱）などの症状が長く続くのが特徴です。また、体重が減る、食欲がない、寝汗をかく、などの症状もあります。 さらにひどくなると、だるさや息切れ、血の混じった痰などが出始め、血を吐いたり（喀血）、呼吸困難で死に至ることもあります。
予防対策	○健康的な生活 普段から適度な運動、十分な睡眠、バランスの良い食事、タバコを吸わないなど、抵抗力を高めておくことが重要です。 ○定期健診 早期発見のために胸部Ｘ線検査を１年に１回程度受けておくことが大切です。 ○予防接種 乳幼児は抵抗力が弱く、結核に感染すると重症化しやすいため、生後 1 歳になるまでに BCG の予防接種を受けましょう。 ○咳エチケット 咳やくしゃみをする時はティッシュや布を口と鼻にあてる、または、マスクを着用するなど他の人に直接飛沫がかからないようにしましょう。
治療	一般的に、複数の抗結核薬を 6～9 ヶ月間毎日服用します。症状がなくなったからといって、自己判断で服薬をやめると、薬の効かない菌（耐性菌）が出現して治療が難しくなります。耐性菌の出現を防ぐためにも、医師の指示に従い服薬を継続することが大切です。 また、結核の治療費用は公費負担が受けられます。詳細は健康福祉センターまたは保健所へご相談ください。

（疾病の予防解説　参考）

厚生労働省 HP　https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou03/index.html

公益社団法人結核予防会　結核研究所 HP　https://jata.or.jp/

※予防解説は一般的なことを記載していますので、不明な点は主治医によく相談するようにしましょう。

3 その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、8月に県内で警報および注意報が発令された感染症は次のとおりです。

	第 31 週 (7/31～8/6)	第 32 週 (8/7～8/13)	第 33 週 (8/14～8/20)	第 34 週 (8/21～8/27)	第 35 週 (8/28～9/3)
ヘルパンギーナ	【警報】県全体・宇都宮市・県南・県北・安足	【警報】宇都宮市・県南・安足			
手足口病	【警報】県西				

※国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムは、過去の週ごと・保健所ごとの届出数に基づき、届出数が特に多いとき（およそ上位１％以内）に警報が発生されるよう、疾病ごとに定点当たりの基準値が定められたものです